

## 首都直下地震に対応した

## 代替輸送訓練《図上訓練》の開催案内（案）

## &lt; 背 景 &gt;

東日本大震災では、日本海側地域の港湾が東北地域の代替機能を果たしました。

今後発生が危惧されている首都直下地震などにおいて事業継続を確実なものとするためには、自らの復旧のみならず、同時被災確率の少ない日本海側に代替生産拠点及び供給先への代替輸送ルートを確認し、サプライチェーンを維持する代替戦略が必要です。

北陸地域国際物流戦略チーム（北陸地方整備局・北陸信越運輸局）は、代替輸送を確実なものとするため、昨年に引き続き代替輸送訓練を実施します。

訓練では、供給先への代替輸送ルートの確保等について、物流が途切れた場合にどのような問題が生じるかなど、災害発生時を模擬体験することにより経験値の向上を促進します。

## &lt; 訓練で養う3つの力 &gt;

## ～サプライチェーンを維持し、国際競争力を維持するために～

- (1) 被害想定に縛られない発想力（柔軟な考えを養う）
- (2) 被災時の利益を考えた企業の戦略力（発想の転換を養う）
- (3) 情報を待たない判断力（現場の判断力を養う）

## &lt; タイムスケジュール &gt;

ファシリテーター: ○○ ○○

13:00～13:30 情報提供・オリエンテーション 1

13:30～13:50 第一部:ワークショップ

「代替輸送、物流ルートを変更する際の理想的な方法、連携体制」

13:50～14:10 オリエンテーション 2

14:10～16:10 第二部:模擬災害体験演習（途中休憩含む）

16:10～16:40 反省会、講評 アンケート実施

■日 時 : 2016年10月○日( ) 13:00～16:40 (12:30 受付開始)

■場 所 : 埼玉県さいたま市○○○○

○○○○ホール

■対 象 : 企業、研究機関、一般

■定 員 : 100名(事前申し込みが必要。定員100名になり次第締め切りさせていただきます。)

■申し込み方法 : FAX 又は Eメール (〆切 : 10月○日( ))

■参加費 : 無料

■主 催 : ○○○○

北陸地方整備局、北陸信越運輸局

■共 催 : ○○○○、○○○○、○○○○、

○○○○

■後 援 : ○○○○

企業活動にとって有用な訓練として頂くため  
協力企業にもお声がけを頂きまして、ふるってご参加ください。

ご参加を希望される方は、ご記入の上 FAX または E メールでお申し込みください。

**Fax :** 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇      **E-mail :** 〇〇〇〇@〇〇〇〇

参加する個所に○をつけてください。

10 月〇日( ) 首都直下地震に対応した代替輸送訓練      参加

|       |   |        |  |
|-------|---|--------|--|
| 御社名   |   |        |  |
| ご住所   | 〒 |        |  |
| ご氏名   |   | 部署・役職名 |  |
| 電話番号  |   | FAX 番号 |  |
| E メール |   |        |  |

(問い合わせ: 〇〇〇〇)

## ■目的

- ・東日本大震災時には、太平洋側港湾の代替として日本海側港湾が機能。
- ・首都直下地震で太平洋側の港湾が長期間使用できなくなった場合に、製品や原材料などの輸出入をどう継続するかを検討する図上訓練を埼玉県内で実施。



## ■参加者

太平洋側港湾利用荷主等で、災害時に企業の事業継続を考える上で港湾の代替輸送に関心のある企業

- (1) 荷主 (2) 陸運(物流業者) (3) 海運事業者 (4) 倉庫業者 (5) 船社 (6) 港湾管理者  
 ※昨年度の訓練では、製品や原材料を取り扱っている荷主企業や物流関係者の担当などが参加。

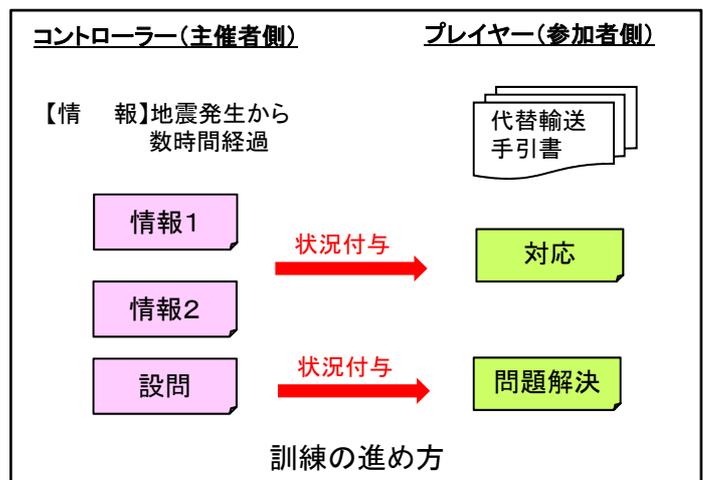


## ■訓練内容

- ・訓練では、災害時と同様な状況を設定し、その中で参加者は役割が与えられて、災害状況を模擬体験する。
- ・参加者は、あらかじめ設定された模擬会社の一員となり、製品の輸出入を続けるため、流通ルートを北陸港湾に切り替える手続き等を確認する。
- ・具体的には、北陸の港湾まで製品を運ぶトラックの手配や、税関の手続きをどう進めるか、船の空きスペースを確保する手続きなどの手順を確認する。



代替輸送訓練の状況



## ■訓練の成果

- ・供給先への物流が途切れた場合にどのような問題が生じるかなど、災害発生時を模擬体験することにより経験値の向上を促進。
- ・前回の訓練後のまとめでは、参加者から「サプライチェーンのネットワークを平時から確立しておくことが重要」との意見があげられた。